

自律 (じりつ)

R4. 9. 21

全国学力・学習状況調査の結果

4月19日に3年生を対象に、全国学力・学習状況調査を実施しました。今年度は、国語科と数学科、理科、日常生活や学習に関する質問について調査しました。以下に、全国・静岡県との比較や、本校の結果と分析、今後の取組についてお知らせします。



	国語科	数学科	理科
全国	69.0	51.4	49.3
静岡県	70	54	52
本校	全国平均とほぼ同じ	県平均とほぼ同じ	全国平均とほぼ同じ

	主な傾向(良い表れ○、課題◆)	今後の取組
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○表現や言葉の工夫について、授業で取り組んだスピーチの経験を活かして解答できていました。 ○漢字の問題は多くの生徒が正しい文字を書けました。 ◆「~のように」と「~みたいに」が表現の特徴と気づいていましたが、「比喩」という言葉が出てきませんでした。 ◆物語文の話の展開が捉えられておらず、登場人物の心情が理解できていない生徒がいました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を伝える場面を設定し、スピーチや発表を通して表現する力を身に付けます。 ・表現技法を確認し、会話の中や文章を書くときに実際に使えるような活動を実践します。 ・多くの文学作品に触れる機会を設定します。文章の読み方を教え、キーワードを探したり、登場人物の言動に注目したりしながら、話の展開や内容を捉えられるように支援します。
数学科	<ul style="list-style-type: none"> ○計算問題の知識や技能についての正答率が比較的高かったです。 ○各問の(1)にあるような基本的な問題は、比較的できていました。 ◆表やグラフを読み取る力が不足していました。 ◆身の回りの事象を、数学的な見方・考え方で処理していく力が不足していました。 ◆説明や証明では、記述の型を意識して書こうとしていましたが、数式を十分理解できていませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識や技能の定着を今後も目指します。定期的に計算練習を取り入れます。 ・生徒がお互いの考え方を伝え合う活動を取り入れます。その際、数学用語を多く取り入れられるように支援します。 ・関数の指導では、変化の割合などが、それぞれ式や対応表、グラフのどこに表れるのかを丁寧に説明します。 ・数学と身の回りの事象を結び付けられるような活動を取り入れます。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○水の電気分解についての化学反応式が書いていました。 ○生物分野では、観察結果から分かることについて、問題文から根拠を示して記述することができていました。 ◆気圧やバネ、前線と天気、地層の広がりなど、苦手意識のある単元では、基本的用語や法則は理解しているが、それらの知識を活用することができていませんでした。 ◆身の回りの現象を考える問題(飛行機雲、吸湿発熱繊維)では、実験・観察結果から得られた考察の妥当性を科学的に考えることができていませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原子記号や化学式、天気記号や回路用図記号など基礎的な内容は小テストを実施し、基礎基本の定着を図ります。 ・実物に触れる機会をできる限り授業で設定します。生物が生きていくための工夫に触れ、興味・関心を高めます。 ・実物に触れることが難しい分野では、ICT機器を活用して、動画を見たり、モデル化したりして、視覚的なイメージをふくらませ、理解を深めます。 ・課題について自ら検証実験を考え、実験・考察する探究的な活動を設定し、科学的思考力や主体的に学ぶ態度を育みます。
生活・学習状況調査	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均に比べ高かった主な項目 「学校が楽しい」 「自分でやると決めたことはやり遂げる」 「いじめはどんな理由があってもいけない」 「友達と協力するのは楽しい」 ◆全国平均に比べ低かった主な項目 「授業が分かる」 「自分にはよいところがある」 「将来の夢や目標をもっている」 「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する」 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標「自律」のもと「自らの目標に向かって主体的に学び、考え、判断し、行動できる」生徒の育成を目指し、生徒一人ひとりの良さを認め励ますよう、全職員で支えていきます。 ・生徒同士の学び合い活動やICT機器を効果的に活用し、「分かった」「できた」を実感できる授業を実践します。 ・今年度より「ときわコミュニティ・スクール」となり、保幼小中との連携や地域ボランティアの活用を推進し、地域と共にある学校を目指します。

森中学校では、

○生徒の「自律」に向けた教育活動を意図的に組む

○「聴く」「比べる」「伝える」活動を通して、考えを深める力を育成する授業づくりを行う
この2つを通して、ときわコミュニティ・スクールの目標である「たくましく、しなやかに学び続ける生徒」を育成しています。今回の調査結果を受け、課題となっている点について今後も取り組んでいきたいと思ひます。



二学期も森中生が大活躍！

○わたしの主張 2022in 森町 県大会 優秀賞 滝瀬さん(3年)・音楽部発表

滝瀬さんの思いがこもった素晴らしい発表で、多くの参加者から大きな拍手をいただきました。音楽部の美しい琴の演奏も披露されました。



○磐周地区英語弁論大会 第4位(西部大会出場) 鈴木さん(3年)

英語でスピーチを行う弁論大会に本校から3年生の鈴木さんが出場しました。学校でも練習を重ね、本番では堂々とした発表を行いました。磐周地区の大会では見事4位となり、西部地区の大会にも出場しました。



各学年、「総合的な学習の時間」で学んでいます

今月は各学年で「総合的な学習の時間」を活用した体験型の学習活動を行いました。



3年生は、高等学校の先生をお招きしての上級学校の模擬授業を受けたり、SDGsをテーマにしたグループ活動を行ったりしました。卒業後の自分や、これからの社会について考える良い機会となりました。



2年生は、地域の事業所において、職業体験を行いました。様々な職業を体験することで、その魅力や大変さ、そしてそこで働く方々の思いに触れることができました。



1年生は、福祉をテーマに、パラスポーツのボッチャや、車椅子の体験を行いました。生徒はパラスポーツの楽しさや、身障者の方々の気持ちに触れることができ、助け合うことの大切さを学ぶことができました。



どの学年も、日頃の授業だけでは学ぶことができない体験をさせていただくことができました。この度、御協力いただいた諸団体、関係者の皆様、本当にありがとうございました。

学校支援（協働活動）ボランティアの活動、ありがとうございます



以前紹介しました「地域学校協働活動」として、学校支援（協働活動）ボランティア「花壇を作り隊」の方々にきれいな花を植え始めていただいています。他にも「学習応援隊」の方々に、2学年家庭科の絵本作りのサポートに入ってくださいました。

今後も技術科の授業内での「学習応援隊」や「草刈り隊」等の活動も行っていきます。どの活動も実施日に関してはボランティアの方の可能な日や時間で行っていただいています。推進は地域学校協働活動推進委員(山崎さん・岡戸さん・吉筋さん)に行っていただいています。活動に関する質問や参加可能な地域の方や保護者の方は、森中学校(85-3124)までご連絡ください。一人でも多くの方の御協力があると大変助かります。今後ともよろしく願いいたします。

